

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

第27回ヒューマンウェブ

集会に450人が参加

12月8日、大阪城公園教育塔前広場で、第27回ヒューマンウェブ集会が開催され、450人を超える障害当事者・家族・関係者が参加しました。集会前のオープニングでは、障害当事者の青年が自らの願いを歌詞にした、世界中の卒業生のささげる歌を披露しました。その後、参加者全員で、世界は一人のために「世界に一つだけの花」を合唱しました。

憲法が守り生かされる政治を

開会あいさつをかねて基調報告を行った大障教の戸田委員長は、10月22日に行われた総選挙の結果を受けて、安倍首相は憲法を変える気満々の勢いであるが、与

私のことは私が決める！ カジノはやめて福祉にまわせ！



党が多数の議席を得たとしても、まだまだ多くの人が憲法9条は変えてはいけない」と考えていると述べました。教育分野については、新しい支援学校の建設が実現したものの、児童生徒数が300人以上の府立支援学校が昨年より2校増えて12校となった。教育委員会は、府立支援学校の知的障害児童生徒数が、今後10年間に現在より1400人増加するとの推計を発表したが、それへの対策はまだ何も明らかにしていないなどと訴えました。



当事者からの訴えもありました

会場からのリレートークに大きな拍手

リレートークでは、手話は言語、手話言語条例をすべての市町村で制定を、大阪聴力障害者協会へ、65歳以上の障害者等を対象とする老人医療費助成制度の廃止反対（大阪肢体障害者団体連絡協議会）、障害者の暮らしを守る立場に立った府政の実現を（きょうさん大阪支部）、通常学級の定数は支援学級在籍者を含めて35人に（大阪障害児者を守る会（ぼろ支部））、四條畷校を本校に。教室不足の解消を、大阪の障害児教育をよくする会など、それぞれの立場から切実な要求が語られました。その後も、給料を減らさないで、「入所施設を作って」「ぼくはがんばってます」など、飛び入りの障害者当事者の一言発言が続き、会場は大いに盛り上がりました。

直接請願行動に各団体から17人が参加

集会と並行して行われた「ヒューマンウェブ個人請願」提出行動には、学びの場「ぼろスクエア」の現役学生や各団体の代表17人が参加しました。提出行動の参加者は、「大阪府財政構造改革プラン」を撤回し、福祉・医療・教育に関わる施策を充実して

みんなの願いをドラムのリズムにのせて

集会後参加者は、みんなのくらしと権利を守れ！「私のことは私が決める！」「カジノはやめて福祉にまわせ！」「など、みんなの願いをドラムのリズムに合わせて府民に訴えました。



政府は、1月22日に召集される通常国会に8本の「働き方改革」関連一括法案を提出し、成立を狙っています。政府案では、高度プロフェッショナル制度という新しい制度をつくり、年収1075万円以上の「高度専門職」については、労働時間・休憩・割増賃金などの規制を適用除外にしようとしています。労働時間規制が無くなれば、労働者は成果をあげるために、際限の無い長時間労働を強いられるのは必至です。

また、裁量労働制を、提案型営業などに拡大しようとしていることも問題です。裁量労働制とは、実際の労働時間に関係なく、労使協定で定められた時間だけ働いたと見なして賃金を支払う仕組みです。協定で8時間と決めれば、1日10時間働いたとしても、8時間だけ働いたことにされてしまうのです。

現在は、企画・専門業務に限定されていますが、損保ジャパン日本興亜や野村不動産では、営業社員にまで適用して残業代を支払っていないことが発覚しました。こうした違法行為までを合法化しようというのです。

さらに、残業時間の上限を、月45時間、年360時間「に設定する一方で、特例」を設け、休日労働を含め2ヶ月平均で月80時間以内、単月で100時間未満まで残業を認めます。これは過労死ラインの残業量です。しかも、研究開発業務は適用除外とし、建設業・運転・医師は5年間先送りです。最低でも、月45時間を上限として例外を認めないことを法定化する必要があります。

過労死や長時間労働の根絶など、労働者の願いに応えない「働き方改革」では、何の意味もありません。

障害のある子どもたちにお話の楽しさを

青年教職員のための実践力UP連続講座&子育てママ・パパ応援企画

12月2日、大障教青年部と女性部共催で、青年教職員のための実践力UP連続講座と子育てママ・パパ応援企画を兼ねて、おはなしの会とママ・パパ交流会を行いました。講師を下さった「クリーク」の代表、堤すみこさんは、中津養護学校で長く勤務され、府障教の女性部長も務められた私たちの大先輩です。養護学校を退職された方を含む5名で、おはなしの会「クリーク」(ハイチの言葉で「おはなししてもいいですか」を結成され17年になるそうです。「絵本やおはなしを届け、共に楽しみ共感できる場を」と、成人施設やグループホーム、高齢者施設、ダウン症の家族の会に、ボランティアで活動をされています。

物語の世界に惹きこまれて

第1部は、堤すみこさんから、「障がいのある子どもたちにお話の楽しさを」というテーマでお話しいただきました。家の中で引

きこもりになっていたダウン症の女性と出会い、絵本を読み合う「おはなし」を通して少しずつ心がつながり、外の世界に足を踏み出せるようになったというお話には、心を打たれました。



お話しする堤すみこさん

第2部は、「クリーク」の

皆さんによる、「うたあそびや」「おはなし」が実演されました。手袋で作った草の間から、お花が顔を出すのがとても可愛い「うたあそび」「お花がわらった」で始まり

ました。「にわのこどり」は、指につけた小鳥が、歌に合わせて急に消えたり出てき

たりして、会場から驚きの歓声が上がりました。ろうそくをつけての「おはなし」は、「おだんごぱん」と「さんまいのおふだ」を聞きました。絵本は語りだけなのに、情景が浮かぶように物語の世界に惹きこまれました。「なつとくたいそう」で体を動かした後、人形を使ったおはなしやエプロンシアターも見せてくださいました。

最後は、「よかったね、ネッドくん」というおはなしです。パーティーに招かれたネッドくんが危ない目



手遊びを披露する「クリーク」の皆さん

第3部は、大教組女性部が作成したDVDを使って権利の学習をした後、交流会を行いました。「一人っ子の我が子に愛情を100%注ぎたい」という意見に対し、子どもが二人になればさらに愛情は倍になり、子ども同士の育ちあいもある、という温かいコメントが出されました。

子どもが二人になれば愛情は倍に

また、家庭での男性の育

ました。また、今後も企画し

ていきたいと思います。



交流会の様子

参加者の感想より

いろいろなお話の実践や、権利について勉強になりました。エプロンシアターや人形劇など、教材として、また生まれてくるわが子にも、作って聞かせてあげたいなと思いました。産休中に作ってみようと思います。クリークの皆さんのパワーに元気をいただきました。ぐうぜん、なつかしい方にも出会えてうれしかったです。自分の第2の人生についての参考になりそう。権利の学習会、職場での参考にさせていただきます。実際の読み聞かせや、手遊び、楽しかったです。優しい雰囲気、お話もいろんな形でされていて、アイデアがおもしろかったです。とても参考になりました。権利のDVD、まとまっていたわかりやすかったです。いろいろなお話が聞けてよかったです。堤先生のお話は、とても心に響きました。先生の言われた「目標」は、今、現場で問題になっている個別の目標とは全く違う、生きる力の目標だと、本来の目標だと思いました。